

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年1月20日  
江別市立大麻西小学校

1. 本年度の重点教育目標

◎自ら目標に向かい ねばり強く挑戦する児童の育成  
～“チームあさにし”として子どもの未来を組織的に語り合える教職員～

2. 自己評価結果に対する学校関係者評価 ※評価項目に書いている数字はグランドデザインに対応

分野	評価項目	R7の自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	○子どもの未来を組織的に語り合える教職員 ・教職員一人ひとりが参画している学校 ・チーム“あさにし”として同じ目標に向かったり、共通した取組をしたりできる学校	A	分掌再編による負担平準化は、教職員が当事者意識を持ち取り組んだ成果であった。次年度は、小中一貫事務局体制の変化を見据え、学校の運営方針と整合性を保ちつつ、より円滑で機能的な組織体制の構築に向け、分掌の最適化を継続的に検討していく。	A	A
	④質の高い教育活動を推進する学校組織の強化・活性化と人材育成 ・働き方改革の推進により、子どもたちと向き合う時間の確保に努める学校 ・動く組織・自走する組織が構築された学校	B	業務改善の定着により職員の取組は活性化したが、時間管理の効率化に課題が残る。今後は成果を日常に還元し、更なる効率化と環境改善を推進。教職員が持続的に力を発揮できる、機能的な組織運営体制の構築に努める。	A	A
	⑧地域・家庭・学校が三位一体となった学校経営 ・PTA活動や地域との連携体制を深めている学校 ・学校運営委員会（学校関係者評価）を通じ、地域と連携した教育活動への理解・協力を得るとともに、本校の教育に対する意見や考えを学校経営に生かしている学校。	A	教育活動や情報発信は概ね高い評価であった。今後、保護者へ出前授業等への参観も周知するなど、参画機会を拡充し、地域・家庭との連携を深化させる。より簡潔で伝わりやすい情報発信を心がけ、相互理解に基づいた信頼される学校づくりを組織的に推進していく。	A	A
教育課程・学習指導	①不断の改善を目指す教育課程経営 ・行事に対し、明確なねらいと高い目標を設定し、子ども達に成功体験・肯定感・向上心の醸成を行う学校	A	教職員・保護者・児童から高い評価を得て、行事が成長の場として機能した。今後は主体的な活動を拡充し、学びを日常へ還元するとともに、3つの資質・能力の育成を軸に、教育活動全体を通じた組織的指導を一層推進する。	A	A
	○ICTの効果的な活用と教職員の資質向上をねらう校内研修の推進 ・ICTを活用した授業改善を図る学校	A	ICT活用の授業改善が進み、効果に応じた適切な使い分けがなされている。今後は活用の意図を一層明確にし、学びの質の向上を目指し、目的意識を持った効果的なICT活用を組織的に推進する	A	A
	⑥特別な支援を要する子ども・不登校（傾向）児童への手立てと校内体制 ・実態把握に基づいた適切な指導方法や必要な支援方法を確立できる学校	A	児童・保護者の困り感に寄り添う支援を継続する一方、体制上の限界も顕在化している。今後は登校支援室の運用等の対応を再検討し、個別の支援と持続可能な組織運営が両立できる体制の構築を組織的に推進していく。	A	A
	○素晴らしい事象や文化に感動し、感情を高める教育の推進 ・文化的な活動が充実した学校	A	掲示物は毎月更新し環境維持に努める。次年度は司書と連携しながら、児童の読書意欲を高める推進体制を構築し、読書活動の活性化の取組を推進していく。	A	A

	<p>②学びに向かう力を育てる学習指導と授業改善（改革）</p> <p>②知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかる・できる」の習得と、応用・発展につながる力の習得</li> </ul> <p>②思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考を深化させ、多様な方法・場で伝え合うことができる力</li> </ul>	B	<p>学びのシートの活用により、目標設定や見通しを持った学習、振り返りの習慣化に確かな成果が見られた。今後は、受動的な学習姿勢を改善し、粘り強さを育むため、思考の深まりを重視した対話の充実に注力する。対話を目的化せず、授業のねらいに合わせた指導とのバランスを全職員で共有しながら授業改善を進める。家庭学習については「家庭学習のすすめ」を基に保護者との連携を深め、学習習慣の定着を図る。児童の定着度に応じた適切な指導と、全職員による継続的な検証・改善を通じ、全員の力を伸ばす組織的な授業改善を推進し、児童の持続的な成長を支援していく</p>	A	A
生徒指導・体力向上・健康教育	<p>○人間性を育てる心の教育</p> <p>○自己実現を支える生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくましく未来を切り拓く力を培った子ども</li> <li>・社会規範や公共意識をもち、自己指導能力をもった子ども</li> <li>・自発的・主体的な子ども</li> <li>・自分で決定できる子ども</li> </ul> <p>☆大麻8ルールの重点を意識</p>	A	<p>次年度も小中一貫で挨拶を重点化する。児童の自己評価は高いが、教職員や保護者側の期待値との差がある。今後は「良い挨拶」の共通認識を育むため、児童主体の児童会活動と連動した取組を充実させ、形式に留まらない主体的な挨拶の定着を組織的に推進していく。</p>	A	A
	<p>○自他を守る健康・安全・美化指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「体力づくり」のための意識の高揚と行動を習得した子ども</li> <li>・心身共に健やかな生活を築くための知識や行動を習得した子ども</li> </ul>	A	<p>外遊びや全員遊びを奨励し、体力向上と学級経営の充実を図る。体力テストの結果を反映した授業改善や出前授業も継続し、運動習慣の定着を組織的に進め、健やかな心身を育む環境構築に努める。</p>	A	A
小中一貫教育	<p>⑤小中一貫教育の日常化による「目指す子ども像」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区と組織的に連携し、義務教育9年間を見据えた指導を行うことのできる学校</li> <li>・幼保こ小と連携できる学校</li> </ul>	A	<p>事務局校としての教職員が組織的に中学校区間の連携に取り組むことができた。成果を確実に引き継ぐため、総括と次年度方針の策定を進めるとともに、今期の経験を糧に、次年度以降の小中一貫教育の推進役として、より主体的な参画を推進していく。</p>	A	A
その他	<p>⑦組織力を生かした危機管理体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的に子どもの安心、安全を確保し命を守る学校</li> <li>・いじめに対し未然防止や見逃しゼロに取り組む学校</li> </ul>	A	<p>組織的指導体制への高い評価であった。今後も全職員が認識の齟齬が解消すべく情報共有を強化し、誰も孤立せず支え合える体制を再確認する。重点目標「チーム麻西」の実現に向け、組織力の向上を継続していく。</p>	A	A

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

### 1. 先生方の尽力と子どもたちの成長について

日頃の先生方のきめ細かな配慮と、高い目標に向けた指導のおかげで、子どもたちの確かな成長を実感しています。委員からは、「先生方の評価はもっと高くあってもよいのではないか」という声上がるほど、その努力と成果を評価していただきました。

### 2. 「あいさつ」から見える子どもたちの社会性

児童の自己評価と、大人側の期待値に少し差があることが話題にのぼりました。しかし、これは決して後ろ向きなことではありません。

- ・社会性の芽生えとしての捉え：相手や状況を見て判断できている証拠（社会性の獲得）である。
- ・学校での意識としての捉え：「学校ではきちんとしなければ」という意識の表れであり、学校の教育力がしっかりと機能している。子どもたちが一歩ずつ社会の一員として成長している姿として、ポジティブに捉えています。

### 3. 教職員の働き方について

子どもたちと向き合う時間を確保するため、先生方の業務負担（プールの維持管理やデジタル端末の管理など）を軽減していく必要があります。一般企業と同様に、専門的な知識が必要な業務には「外部の専門家」を配置するなど、より効率的な校務運営を検討していく時期に来ているという意見が出されました。

委員の皆様からも、先生方の頑張りに対する温かい評価と、これからの学校運営への建設的なアイデアを多数いただきました